

胴山古墳 改訂版(坂戸市)

正面前方が胴山古墳(新町1号墳)/6世紀後半築造の二段築成の前方後円墳/左手が前方部、右手が後円部/木々で覆われていて墳形が良く分からない
/南側から見たところ

[video](#)



南西側から前方部に向かう/民家の背後が前方部




右手が前方部の墳丘



こな塩梅



北西側から見たところ

 video



以前の説明板/墳丘長は60mと、この時期の入間地区最大の前方後円墳/この胴山古墳の石室の一部(黒褐色巨石)が勝呂神社境内に置かれていると書かれている

胴山古墳

石井新町の胴山は海抜三〇・二五メートルであるが東西長径六〇メートル、南北長幅三〇メートル(前方部)の前方後円墳である。

墳丘の高さは最高部で二七・五メートル、墳頂に小埴を祀っている。

後円部の東、南側はがかり崩れとりわけて原形をいちじるしく損壊しているが、南側のくぼみは石室構造全部をえぐりとりしている。

たまたま勝呂白山神社の境内に厚さ四〇センチ、三メートル四方の黒褐色巨石があるがこの石が胴山出土のものだと伝えられ、元宿所在の鬼橋で、この胴山の石室の一部ではないかと思われるが、確たる根拠はない。

さて、胴山の前方周溝(西側)は、武藤氏宅の裏に埋まって口井をとりめぐっている。

陪家も愛宕塚、稲荷塚などが残っていたが、いまは全部削平され、その面影はない。

出土遺物がないため年代決定が困難であるが、六世紀後半の築造と推定したい。

坂戸市教育委員会

これが勝呂神社境内に置かれている胴山古墳の石室の一部(黒褐色巨石)らしいが・・・



前方部から後円部方向を見たところ

 video



その道路を後円部の東方向に進んで、後円部から前方部方向に見たところ



後円部を見たところ



これは周溝跡に沿って、後円部から前方部方向を見たところ

[video](#)



後円部の墳頂に登ってみよう



ここが墳頂か・・・



ワイヤーが張っており、子供たちの遊び場と化しているようだ/この冬場でも下草が生い茂っていて墳丘の地肌は良く見えない

 [video](#)



北東側から見たところ/左手前が後円部、右奥が前方部/やはり、木々で覆われていて墳形が良く分からない

 video



ここは胴山古墳の南西側にある民家で、正面のブロック塀の中の右手にマウンドがある/新町9号墳(円墳/7世紀後半の築造らしい)と思われる



これが新町9号墳



反対側から見たところ

 video



坂戸市北東部は6～7世紀に連綿と築造された古墳・古代寺院・官道がセットになって所在する、入間地域でも特異なエリア/その中でも、新町古墳群の主墳である胴山古墳は、勝呂廃寺や東山道武蔵路の造営・開削に関わった氏族の祖先の墓とみられている

図3 古墳・古代寺院・官道 ～坂戸市北東部の貴重な文化遺産～

坂戸市北東部の勝呂地区周辺には、数多くの文化財が残されています。古墳時代には、有力者の墓とされる前方後円墳や大型の円墳や方墳などが連綿とつくられました。律令体制への整備が進む7世紀後半になると、この地域を治めていた有力者によって勝呂廃寺がつくられました。また、古代の官道（現在の高速道路のような役割の道路）が走行していたことが発掘調査で判明しました。「古墳」・「古代寺院」・「官道」がセットとして分かるのは、全国的にも珍しく坂戸市が保有する貴重な文化遺産といえます。

勝呂廃寺
埼玉県内で最大規模の古代寺院
武蔵国分寺と同じ文様の瓦も出土
7世紀後半から9世紀後半まで

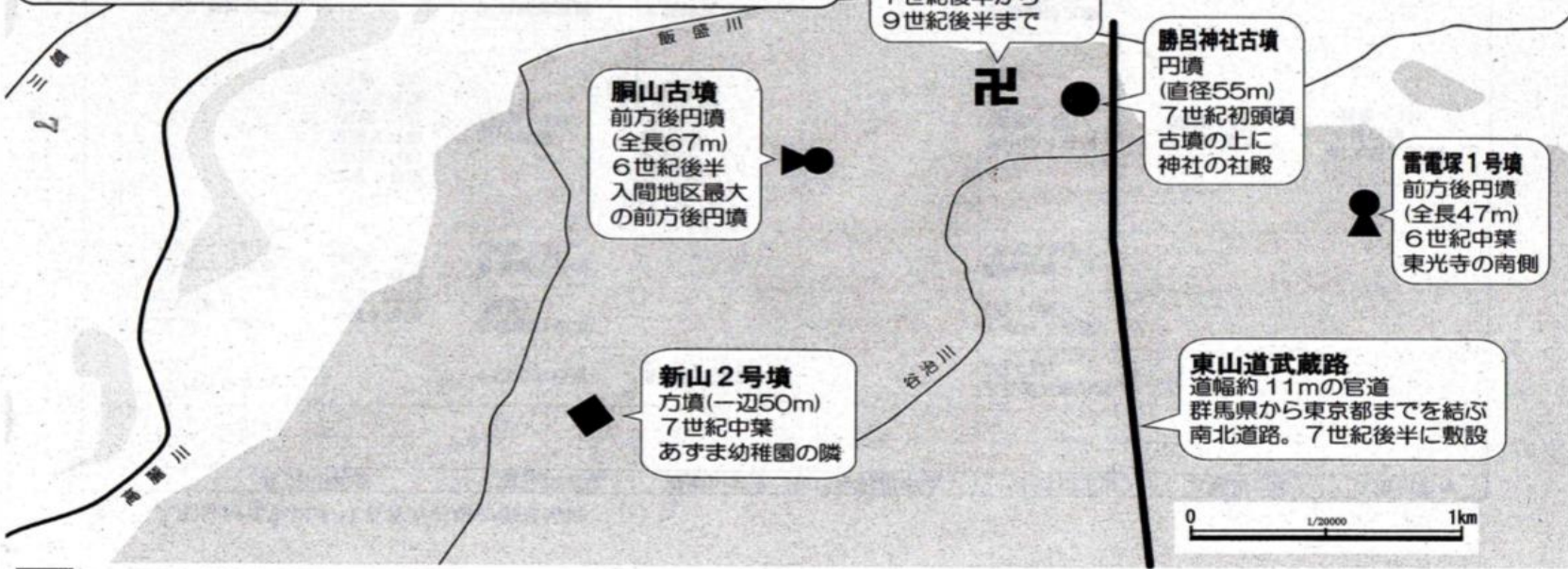
勝呂神社古墳
円墳（直径55m）
7世紀初頭頃
古墳の上に神社の社殿

雷電塚1号墳
前方後円墳（全長47m）
6世紀中葉
東光寺の南側

胴山古墳
前方後円墳（全長67m）
6世紀後半
入間地区最大の前方後円墳

新山2号墳
方墳（一辺50m）
7世紀中葉
あずま幼稚園の隣

東山道武蔵路
道幅約11mの官道
群馬県から東京都までを結ぶ南北道路。7世紀後半に敷設



低地 自然堤防 台地 丘陵

参考ホームページ

<http://yoshida-kofun.in.coocan.jp/saisakdou.htm>

<https://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-1228.html>

<http://michikusa520.blog.fc2.com/blog-entry-57.html?sp>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/efeb6920538dd2bf554f485897011ec2>

